

令和6年度（2024年度） 第1回 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会		
日時・会場		令和6年（2024年）4月26日（金）14:30～16:00 第3・4委員会室
出席者	委員	石井 修一（八王子市町会自治会連合会） 上村 晃一（市民委員） 黒岩亮子（日本女子大学） 齋藤 健（八王子市民活動協議会） 島崎 誠（八王子市民生委員児童委員協議会） 下島 宏文（市民委員） 豊田聡（八王子市社会福祉協議会） 丸山 颯姫（市民委員） 山下晋矢（八王子市医師会） 室田 信一（東京都立大学）
	市職員	立花福祉部長 柏田福祉政策課長 櫻田障害者福祉課長 小俣生活自立支援課長 中山健康医療政策課長 白石保健総務課長
欠席委員		なし
次 第		1. 開 会 2. 委員の紹介 3. 議 題 (1)会長・副会長の選任 (2)第4期八王子市地域福祉計画の概要について (3)令和6年度(2024年度)の開催スケジュール 4. 報 告 ・はちまるサポート長房の一時移転について 5. 閉 会
公開・非公開の別		公開
傍聴人の数		なし
資料		・ 次第 ・ 第4期 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会委員名簿（R6.4.1時点） ・ 【資料1】第4期八王子市地域福祉計画の考え方と特徴について ・ 【資料2】令和6年度（2024年度）地域福祉専門分科会開催スケジュール ・ 【資料3】はちまるサポート長房の一時移転について
会議の要旨		
		1. 開 会 2. 委員の紹介 3. 議 題 (1)会長・副会長の選任 会長：黒岩委員 副会長：島崎委員に決定した。

	(2)第4期八王子市地域福祉計画の概要について 事務局より「【資料1】第4期八王子市地域福祉計画の考え方と特徴について」に基づき、説明。また、 ・ “福祉” が八王子市民の間で、<u>当たり前の「ライフスタイル」</u> になるためには。 ・ 意識・無意識に関わらず…人とひと、人と地域に自然と “つながり” が生まれる<u>行動変容を起こすために</u>、どんな仕掛けをすれば良いのか。 を「本日の論点」として、議論を行った。
黒岩会長	第4期の本地域福祉専門分科会は、昨年度公表した第4期地域福祉計画を具体的に実行に移すにはどうすれば良いのか、という部分を委員の皆さんそれぞれの立場でアイデアをいただき、またその実態などを話し合う中で改善点等も出していただきながら、この計画の進捗管理をすることになっている。 「本日の論点」について、皆さんからご意見をいただきたい。
石井委員	八王子町会自治会連合会では、町会自治会に入会している方向けに年4回町自連便りを発行している。テーマを「向こう三軒両隣、ご近所付き合い」としているが、実際は、ご近所付き合いがないことが非常に多く、町会の加入率が低いことで苦慮している。 以前は、家庭ゴミの回収は、町会に加入すると、町会で決めた集積所に持っていくことができたが、現在は戸別回収となったため、それが町会の加入が少なくなっている原因の一つではないかと考えている。 ご近所付き合いが希薄になる中、「福祉」とは、課題の多い大変な分野だと思う。
室田委員	石井委員のお話しには同意をする。従来はご近所さんに迷惑かけてはいけなし、ご近所さんが大変そうだったら何かやってあげる、それが自分にも返ってくる、ということが行動原理だったと思うが、それが通用しなくなっていることが近年の傾向である。では、どのような原理で人は行動するのか、を探っていくことが重要だと思う。 たとえば、誰も自分の生活や地域を良くしていこうという想いはあるはずなので、そのような気持ちなどにきっかけやヒントがあるかもしれない。
黒岩会長	個人が町会に入るとかではなく、個人が自分の生活や地域を良くするために何が出来るか、まずは気になるところから変えていくという点が非常に重要だと思った。巡り巡ってやっぱり町会、自治会に入ったらもっと良いかもしれないという考えに繋がり、良い循環があると良いなと思った。
上村委員	タイムパフォーマンスやコストパフォーマンス等を優先させ、効率的な生き方を選択するようになり、狭い社会を作って自分の殻をどんどん小さくしているように感じている。それゆえ、困りごとがあってもどの窓口につなげば

	よいのかわからない人が増えているように感じる。 町会長の中でもはちまるサポートや高齢者あんしん相談センター包括の窓口につなぐことができる人が少なくなっているのではないかな。
豊田委員	高齢者サロンやこども食堂などが増えてきている一方、利用された方と一般の方々との「つながり」を作ることが非常に難しいと感じている。福祉に対して問題意識を持っている人から輪を広げていくということが必要であると現場で感じている。
山下委員	「つながり」を増やすことは、短期間では難しい。長期目標として20年、30年単位で行っていく必要があると考える。幼稚園、保育園や小学生のこどもたちに向けて教育行動原理として盛り込んでいく必要があるのではないかな。
黒岩会長	「つながり」を作れることを全市民に広げていくためには、長期的に考える必要があり、幼少期から「つながる」ことの重要性を知っている人を増やす必要があると考える。
上村委員	以前関わりのあった中野区では、地域福祉計画とは別に地域包括ケア総合アクションプランというものを策定している。これは行政計画ではなく、民児協、町自連、介護サービス協議会、ボランティア活動団体、生協、柔道整復師会、不動産協会・宅建協会、3士会、医師会、警察など様々な団体が参加している地域包括ケア推進会議で検討したものであり、各団体が地域包括ケアを推進するうえで何をするかを明記したものである。
下島委員	八王子市は、地域住民が「つながる」ための行動変容に至るまでの過程をどのように考えているのか。
事務局	「つながる」ことは、孤独孤立の解消など、結果的に福祉につながる効果が期待できる。地域住民が日常生活の中で「つながり」をつくっていくような行動変容を促進していきたい背景には、福祉の担い手が減少していることが挙げられる。福祉の担い手を増やすことはハードルが高いが、「つながる」ことは日常生活の中で少しだけ頑張ればできることであり、それが減少する福祉の担い手を補うことができるのではないかと考える。 そこに至るまでの過程としては、例えば「気にかける」「隣近所に挨拶する」所から始めていくということが重要だと考える。
下島委員	なぜ挨拶しなければならないのか、挨拶をする必要性を理解してもらえないと、自分本位の人たち達は動かないと思う。 当社は創業100年であり、当社の今があるのは、先人たちが頑張ったからである。ところが、社員はそのことに気付いていないことから、「先人たちのおかげで今の暮らしがある。これを当たり前だとは思わない。」と社員に

	伝え、そのことを認識してもらっている。今の状況、つまり挨拶のない状況が当たり前だと思っている人たちは、その必要性をしてもらえないと行動に移らないため、「つながる」ことが必要であることを、どのように伝えていくのかということが重要だと思う。
丸山委員	わざわざ地域の人と「つながり」を持たなくても、SNSでつながれてしまう現状がある。地域の人と「つながる」メリットを伝えることが大切だと思う。
齋藤委員	市民活動協議会では、色々な団体や地域での取り組みを把握しているが、地域の中には、高齢者に対して食料を安価で提供していたり、こども食堂で食事の提供だけでなく勉強も教えたりしているところもあり、実際にその中でつながっている人たちがいる。そこから活性化している地域もある。
石井委員	地域の「つながり」が大切だというのが、朝登校中の児童に挨拶をすると、「挨拶をしないでください」という保護者もいる。保護者の意識も変えていく必要があるのではないかな。
室田委員	「『つながる』ことは良いことなので、広げていきましょう」では広げていくことは困難だと思うので、今日はまずその課題の認識を共有できたことが良かったと思う。 なぜ、つながらないのか、つながらない社会はどのような社会になっていくのかという問いかけをする必要がある。
黒岩会長	委員の皆さまありがとうございます。 今日は「本日の論点」について、様々なご意見とご議論をいただき、課題の共有をすることができた。今回の内容をまた次の分科会に活かし、次回はより具体的な議論ができればと思う。
事務局	(3)令和6年度(2024年度)地域福祉専門分科会の開催スケジュール 事務局より資料をもとに説明。都合が悪い場合は、後日連絡をもらうこととした。
事務局	4. 報 告 ・はちまるサポート長房の一時移転について 【資料4】はちまるサポート長房の移転について」に沿って事務局より説明。 5. 閉 会
議事録署名人 黒岩 亮子	